

E-10 収納空間に関する研究——家事労働の位置づけについて——

大阪樟蔭女大 一棟 晃子

目的： 家庭電化製品が普及するにつれて、家事労働のうちの肉体的苦痛を伴う作業の軽減化はかなり進んできた。しかし、家庭内に多量のモノが入りこむことにより、家庭管理面の家事労働の重要性は増してきている。特に、主婦はものごとを系統だてて処理する（あるいは整理する）能力の必要性が増大しているといえよう。一方、住居についてみれば、収納空間の位置や形態は、これらの家庭管理面の家事労働を容易にするかどうかのキー・ポイントであろう。本稿では、収納空間の研究をすすめるにあたり、その基礎となる家事労働の位置づけについて、主婦およびその他の家族がどのように考えているか、また、その実態について報告する。

方法： 女子学生の家庭における、世帯主、主婦、その他の男子家族、女子家族を対象にアンケート調査を実施した。

結果： 〈家事労働の分担について〉は、男性と女性ではパターンの相違がかなり明確である。女性では「手伝った方がよい」「分担を決めるべき」が大半を占め、実際に家事を手伝っている割合が高いのにくらべ、男性では半数以上が「手伝った方がよい」としなから、実際にはほとんど主婦まかせである。特に世帯主においてはそのギャップが大きい。〈収納空間について〉は、自室の収納空間に何がどこに入っているか知っている割合は世帯主が最も低く、その他の男性、女性の順に高くなっている。また、ほぼ全体で、置場新のわかっていく品目数について同様の傾向を示している。これらの傾向は家事の性質上、予想されたことではあるが、収納空間のあり方がかなり影響していると考えられる。